

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成 年 月 日

協議会名:豊山町地域公共交通会議

| ①事業の結果概要 | ②事業実施の適切性 | | ③事業の今後の改善点 (特記事項含む) |
|------------------------|-----------------------------|--|---|
| 【事業内容及び結果概要を記載】 | A ・ B ・ C 評価 | 【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】 | 【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】 |
| 町内全6路線の公共交通マップの更新・配布 | A | これまでの公共交通マップを町内で運行するバス事業者の時刻表等改正に合わせて平成27年11月に更新・作成するとともに、新たな公共交通マップを平成28年3月までに作成するため内容の検討を行っており、適切に実施されている。 | 町民や利用者の意向を把握するとともに、公共交通マップをできるだけ多くの町民や利用者に見てもらえるよう関係機関と連携して周知・PRを図る。 |
| 公共交通情報にかかるWebコンテンツの作成 | A | 公共交通マップの更新内容に応じて、町のホームページのコンテンツを作成するとともに、町民や利用者にわかりやすく公共交通情報を提供するため、スマートフォンに対応したコンテンツを作成しており、適切に実施されている。 | ホームページへのアクセス件数が増加するよう関係機関と連携して周知・PRを図る。 |
| 町内公共交通ネットワークの「見える化」の促進 | A | 公共交通利用促進ネットワークと協力し、とよやまタウンバスの時刻表情報等を一部のコンテンツプロバイダの乗り換え案内サービスに提供するとともに、その他の乗り換え案内サービスに提供できるよう取組を進めており、適切に実施されている。 | とよやまタウンバスの時刻表情報等が複数のコンテンツプロバイダの乗り換え案内サービスで検索できることをできるだけ多くの町民や利用者に見てもらえるよう関係機関と連携して周知・PRを図る。 |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

| | |
|-------|-------------|
| 協議会名: | 豊山町地域公共交通会議 |
|-------|-------------|

| | |
|----------|--------------------|
| 評価対象事業名: | 地域公共交通調査事業(計画推進事業) |
|----------|--------------------|

| | |
|-----------------------------|--|
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | 第4次総合計画に掲げる基本理念「小さくてキラリと輝くまちづくり」とまちの将来像「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」の実現に向けて、自動車に頼らなくても、子どもや高齢者も安心して町内を回遊でき、町外への通勤・通学や買い物、通院など生活に必要な施設に行きやすい公共交通環境の充実を目指す。 |
|-----------------------------|--|

平成22年5月11日設置
平成27年9月1日

豊山町地域公共交通会議

①協議会が目指す方向性(Plan)

〈地域特性〉

- 本町は名古屋市を中心部から10kmの近さにあり、北名古屋市、小牧市、春日井市、名古屋市に囲まれている。面積は約6km²と県内最小で、約3分の1を県営名古屋空港関連の用地が占めているほか、名古屋市中央卸売市場北部市場、エアポートウォーク名古屋、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、三菱重工業(株)小牧南工場等の大規模施設が立地。全体的には住宅地や各種施設などがコンパクトにまとまった構造。
- 幹線道路網は充実している一方、鉄軌道は存在せず、バス交通による公共交通網を形成。バスによる名古屋市中心部へのアクセス時間が最短で約15分であり、名古屋市のベッドタウン。
- 県営名古屋空港の利用者の増加傾向や、わが国初の国産小型ジェット機であるMRJ(三菱リージョナルジェット)の生産・整備拠点事業の進展、県による航空機をテーマとする展示拠点施設などにより、本町への交通需要は、今後とも増大すると予想。

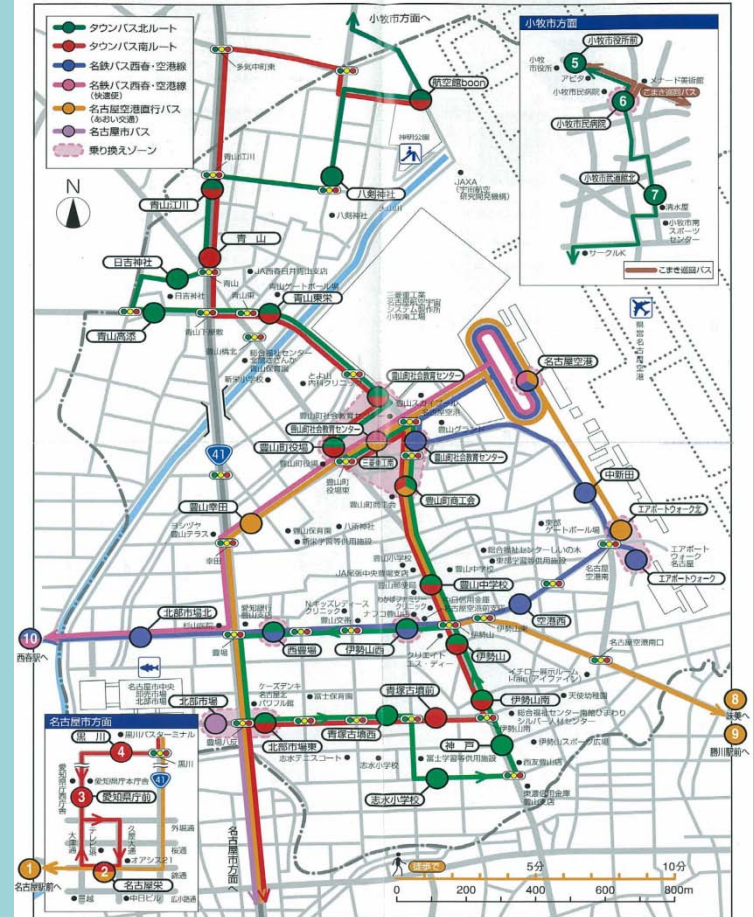
〈豊山町地域公共交通網形成計画〉

- 第4次総合計画や都市計画マスタープランなどとの整合を図りつつ、これまでの地域公共交通総合連携計画を改定し、平成27年度に地域公共交通網形成計画(計画期間:27~31年度の5年間)を策定。
- 計画に掲げる目標値は次のとおり。(カッコ内は平成25年度値)

なお、目標値の設定に当たっては第4次総合計画との整合を図った。

| | |
|-----------------|------------------|
| 公共交通に対する住民満足度 | 20.0%(14.1%) |
| バス停勢圏人口カバー率 | 95.0%(91.9%) |
| とよやまタウンバス年間利用者数 | 94,000人(74,990人) |
| とよやまタウンバス運行負担率 | 50.0%(60.5%) |

●バス路線図



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

〈前年度までの主な事業〉

- ・平成24年度はとよやまタウンバス運行10周年であったため、広報とよやまへの特集記事の掲載や、バスの乗り方教室や無料乗車キャンペーンなどの10周年記念イベントを実施。
- ・平成24年10月には、愛知学泉大学の協力のもと、18歳以上の町民から無作為抽出した47人を対象に町民討議会議を開催し、本町の望ましい公共交通のあり方について意見交換。26年8月にも町民討議会議(参加者:無作為抽出による44人)を開催し、公共交通網の充実について意見交換や発表を実施。
- ・平成24年度に地域公共交通利用実態調査を実施し、タウンバスの南北ルートに対する利用者ニーズの把握などを実施。
- ・平成20年度から毎年更新・発行している公共交通マップについては、バスの乗り方や町外のバス停の地図等の追加、ダイヤの変更情報の掲載など改良を行い、役場やバスの車内、乗車券販売所などに設置。また、役場の窓口で新規転入者に対して配布している「暮らしの便利帳」に公共交通マップを掲載。

〈平成27年度に実施した事業〉

- ・地域協働推進事業を活用して、①町内6路線の公共交通マップの更新・作成と新規転入者等への配布、②公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツの更新、③公共交通情報に係るスマートフォン向けWebコンテンツの作成、④とよやまタウンバスの運行情報等に係るコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスへの提供を実施。
- ・また、町の広報誌やホームページによる公共交通利用のPRなどを実施。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

- ・ 地域公共交通網形成計画に設定した目標のうち、とよやまタウンバスの利用者数は平成26年10月～平成27年9月で78,515人で前年度に比べて約3.4%の増加となった。
とりわけ、幹線系統に位置付けられているとよやまタウンバス南ルートの利用者数は69,035人となり、生活交通確保計画の目標数64,000人を約8%上回った。町内と名古屋都心部を結ぶ当該ルートは、通勤や買物を目的とした町民の生活の足として重要な役割を担っており、今後、町内の三菱重工業やJAXAを中心とした航空宇宙産業の集積地へのアクセスとしても重要性が高まると予想される。

(参考)

- ・ 平成26年度(平成26年4月～27年3月)では、とよやまタウンバスの利用者数は77,733人で前年度(74,900人)に比べて約3.8%の増加。また、とよやまタウンバス運行負担率は56.6%で前年度(60.5%)から約4%改善。
- ・ このほか、あおい交通による名古屋空港直行バスの利用者数は344,932人で前年度(271,940人)に比べて約26.8%の増加、幸田・勝川線の利用者数は44,837人で前年度(32,969人)に比べて約36%の増加。名鉄バスによる西春・空港線の利用者数は669,694人で前年度(619,345人)に比べて約8.1%の増加。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

- ・ とよやまタウンバスの利用者数(平成26年10月～27年9月)は78,515人で前年度に比べて約3.4%増加している。そのうち、南ルートについては、69,035人(前年度比約5.7%増)と生活交通確保計画の目標数を達成している一方、北ルートは9,480人(前年度比約10.7%減)と減少傾向にあり、北ルートの利用者減少に歯止めをかけることが課題となっている。
バスに対する町民のニーズや期待は大きく、今後、利用者を増やしていくためには、運行本数やルート、待合環境などを改善していくことが重要となっている。
- ・ このため、公共交通マップの更新・配布、ホームページやスマートフォン向けWebコンテンツの更新、とよやまタウンバスの運行情報等に係るコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスへの提供を実施するとともに、交通事業者と相談しながら利便性向上や待合環境の整備に努めることにより、利用者数の増加や運行負担率の改善を図っていく。
- ・ また、本町では、MRJ最終組立工場や愛知県が建設する名古屋空港見学者受入拠点施設が平成28～29年度にかけて稼働・オープンする予定であり、町内外の人の流れが大きく変わることとなる。
今後の公共交通網をどのような形にしていくのが最善なのかを調査・研究するとともに、国・県・周辺自治体・バス運行業者等と連携しながら、地域公共交通会議での議論を深めていく必要がある。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

- ・ 取組に当たっては、地域公共交通利用実態調査や町民討議会議などを通じて得られた公共交通に対する町民のニーズをできるだけ反映するようにした。
公共交通マップについては、とよやまタウンバス、名鉄バス西春・空港線、あおい交通の名古屋空港直行バスや幸田・勝川線の基本的な情報を掲載し、ダイヤ改正にも適宜対応している。また、バス利用者の使い勝手を考慮し、とよやまタウンバスの運行情報等について、スマートフォン向けのホームページコンテンツの更新・作成やコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスへの掲載に取り組んでいる。

豊山町地域公共交通会議

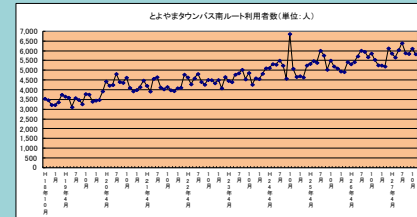
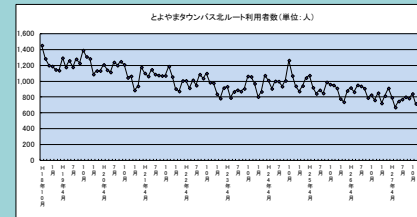
平成22年5月11日設置

計画推進事業の目的

地域公共交通の基本的な情報や概要について、町民や利用者への確かつ効果的に周知する。また、県営名古屋空港の利用者数の増加やMRJの生産・整備拠点事業の進展により、今後増大・多様化する交通需要に対して、より分かりやすく、質の高い情報を提供する。

計画推進事業の概要

- 1 計画推進事業計画の主な内容
取組内容として、①町内全6路線の公共交通マップの更新・配布、②公共交通情報にかかるWebコンテンツの作成・更新、③町内公共交通ネットワークの「見える化」の促進を位置付け。
- 2 定量的目標
(1)とよやまタウンバス北ルート[※]の年間利用者数が、前年より増加すること
(2)とよやまタウンバス南ルート[※]の年間利用者数対前年度増加率が伸びること
- 3 計画推進事業計画の事業実施状況(補助事業・単独事業を含む)
 - ・住民、利用者等の意見を踏まえた分かりやすい公共交通マップの作成
 - ・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成
 - ・スマートフォンによる公共交通関連情報の提供
 - ・時刻情報等のデータ化及びコンテンツプロバイダによる乗り換え案内検索サービスへの掲載
- 4 目標達成に向けた工夫
地域公共交通会議を2回(9月1日、1月14日)開催し、計画推進事業の実施状況について報告・意見交換。公共交通マップ作成については、バス運行業者との連絡調整を行い、充実を図った。



とよやまタウンバス

計画推進事業に対する評価

- ・ 公共交通マップの作成、ホームページの更新、スマートフォンによる情報提供、コンテンツプロバイダによる乗り換え案内検索サービスへの掲載は、利用者ニーズを踏まえた取組であり、いずれも適切に実施されている。

地域公共交通ネットワークへの効果

- ・ 地域公共交通ネットワークへの効果を把握するには一定の期間が必要であるが、地域住民の意識や地域公共交通の利用促進に繋がることが期待される。
- ・ なお、平成26年10月～平成27年9月の利用者数は、とよやまタウンバス南ルートが69,035人(前年度比約5.7%増)、北ルートが9,480人(前年度比約10.7%減)、西春・空港線が715,276人(前年度比約12.4%増)、名古屋空港直行バスが402,599人(前年度比約33.4%増)、幸田・勝川線が57,835人(前年度比約63.0%増)となっており、南ルートと幸田・勝川線はともに生活交通確保計画の目標値を上回っている。

アピールポイント(特に工夫した点)

- ・ 取組に当たっては、地域公共交通利用実態調査や町民討議会議などを通じて得られた公共交通に対する町民のニーズをできるだけ反映するようにした。とりわけ、バスの利用者は外出中に公共交通情報を検索・入手する機会が多いことから、スマートフォンを通じた公共交通情報の提供やコンテンツプロバイダによる乗り換え案内検索サービス(ジョルダン、ナビタイム)への掲載の充実に努めている。

今後の事業等予定、次年度以降の計画への反映等

- ・ 平成28年3月中にダイヤ改正される時刻表を含んだ公共交通マップを作成・配布する。また、更新内容に応じた町ホームページのコンテンツを作成する。
また、コンテンツプロバイダによる乗り換え案内検索サービスへの掲載については、情報提供する検索サイトの拡大を図っていく。

豊山町地域公共交通網形成計画(概要)

平成27年3月策定

地域公共交通網形成計画の目的

人口の増加傾向やわが国初のジェット旅客機MRJの生産・整備拠点計画の進展などの動きを踏まえ、周辺市町村との連携も考慮しつつ、徒歩・自転車・鉄道・路線バス・タクシー・自家用車等の全ての交通手段を一体的なネットワークとして捉え、第4次総合計画の基本理念である「小さくてキラリと輝くまちづくり」の実現を支えることを目的とする。

地域公共交通網形成計画の概要

1 計画に基づいて実施する事業

- (1)人にやさしい安全な交通 【①バスや関連施設の充実、②高齢者等の移動範囲の拡大】
- (2)まちの機能や魅力を高める利便性の高い交通 【①バスの利便性の向上、②産業活動や地域間交流を支える交通環境の整備】
- (3)環境にやさしい交通 【①クルマに過度に依存しない交通行動の促進、②自転車・徒歩で移動できる交通環境の整備】

2 計画の目標

自動車に頼らなくても、誰もが、安全・安心で便利に、行きたい所に行ける地域公共交通を実現する。

〈具体的な数値目標〉 ※()内の数値は現状値(平成25年度)

- ①公共交通に対する住民満足度 20.0%(14.1%)、②バス停勢圏人口カバー率 95.0%(91.9%)、
- ③とよやまタウンバス年間利用者数 94,000人(74,990人)、④とよやまタウンバス運行負担率 50.0%(60.5%)

3 幹線系統補助の位置付け

名鉄バス西春・空港線やあおい交通空港直行バス及び幸田・勝川線、名古屋市営バス、とよやまタウンバスをネットワークとして総合的に捉え、それぞれの連携を図る。

その中で、既存路線の維持と国の地域公共交通確保維持改善事業の積極的な活用を図っていく(本町関連では、とよやまタウンバス南ルートと幸田・勝川線が補助対象に位置付けられている)。

地域公共交通網形成計画に基づいて実施する事業

| 事業の内容及び実施主体 | 実施 目標年度 |
|--|------------|
| 1 既存路線の維持と国の事業の積極的な活用（町・地域公共交通会連・バス事業者） | |
| (1) 既存路線の継続運行 | 国のスケジュール |
| (2) 地域公共交通確保維持改善事業の活用 | 4次交付金 |
| (3) 地域公共交通関係改善事業の活用 | 必要に応じて |
| 2 地域公共交通会連の整備（町・地域公共交通会連） | |
| (1) 地域公共交通会連の整備 | 年3回開催 |
| 3 バスや関連施設の充実 | |
| (1) バスの安全対策やバリアフリー化（町・バス事業者、施設管理者） | 随時実施 |
| - バス乗員の交通安全対策とともに、ヒューマンエラーによる事故の防止対策を推進します。 | |
| - タクシースタンドのバス乗降を効率的にバリアフリー化に取り組みます。 | |
| (2) バスの待合環境の整備（町・バス事業者、施設管理者） | 28年度～ |
| - ベンチやバス等の乗降施設の整備、公共交通利用案内やサインの充実に取り組みます。 | |
| - 社会教育センターについて、バスの待合や案内、乗降場の整備など、テーマパークとしての機能強化を図ります。 | |
| 4 高齢者等の移動困難の拡大 | |
| (1) バス乗降場の拡大や利便性の向上（町・バス事業者） | 28年度～ |
| - バス路線の充実や道路ネットワークの整備などを通じて、バス乗降場の拡大や利便性の向上に取り組みます。 | |
| (2) 利用しやすい運賃体系の構築（町・バス事業者） | 30年度～ |
| - 利用者の意向や費用対効果を踏まえつつ、わかりやすく利用しやすい運賃体系の構築に取り組めます。 | |
| (3) タクシーや移送サービスとの連携（町・タクシー事業者、社会福祉協議会など） | 29年度～ |
| - これまでの施策の継続実施と名古屋交通圏タクシー連帯地域協議会が作成する「準特定地域計画」と連携した取組等、引き続きタクシーの特性を活かした移送サービスや移送サービスの取組を検討しています。 | |
| (4) デマンド交通の導入（町・バス事業者、デマンド交通事業者） | 30年度～ |
| - とよやまタクシーの北ルート周辺地域を中心に、デマンド交通の導入を検討します。 | |
| 5 バスの利便性の向上 | |
| (1) とよやまタクシーバス南北ルートの改善や見直し（町・バス事業者、商業施設や医療機関など） | 29年度～ |
| - とよやまタクシーの南北ルートにおいて、利用者ニーズに対応した改善を見直しを行っています。 | |
| (2) バスの利用環境の改善、充実（町・バス事業者、施設サイト事業者） | 27年度～ |
| - 「地域振興推進事業」の取組を確実に実施するとともに、Qマークの活用やバスカーションシステムなど、新たな利用環境の改善、充実を検討しています。 | |
| (3) 新しい乗車サービスの導入（町・バス事業者） | 30年度～ |
| - とよやまタクシーの南北ルートなどにおいて、定期乗車をはじめとした乗降や乗降制限など、新しい乗車サービスの導入を検討します。 | |

| | | |
|---|--|-------|
| 実 現 の 利 便 性 の 高 い 交 通 | ・IC乗車カードについては、とよやまタクシーバスを始めた町内を運行するバス路線でも、乗降の合図として引き続き有効と行っています。 | |
| | 6 乗車移動や地域間交通を支える交通環境の整備 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (1) MRJ関連の通勤者や見学者のアkses確保（町・バス事業者） | 27年度～ |
| | - とよやまタクシーバス、多岐バス、あおい交通が連携・協力して、それぞれのバス路線の充実を図っていくこととします。 | |
| 実 現 の 利 便 性 の 高 い 交 通 | (2) 近接市町のバス路線との連携（町・近接市町、バス事業者） | 30年度～ |
| | - きたバス（北名古屋市）、こまき定期バス（小牧市）、かすがインシティバス（豊田南西）等との連携に向けて、各バス路線の乗降連携やバスを行い、将来的にはダイヤの調整や待合所の整備、乗り継ぎ案内などを検討していきます。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | 7 カルマに過度に依存しない交通行動の創出 | |
| | (1) 公共交通マップ等の作成、配布（町・地域公共交通会連、町民団体等） | 随時実施 |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | - 毎年発行している公共交通マップについて、住民や利用者等の意見を踏まえながら、よりわかりやすいマップを作成し、町民や町民への通勤者などに配布します。とりわけ、新規購入者については、窓口で配布している「暮らしの便利帳」にも公共交通マップを掲載し、公共交通のPRを行います。 | |
| | - 地域公共交通会連や町民団体等との連携の協力を得ながら、公共交通を利用したお出かけプランを提案することにより、町民が公共交通を使っていきたいと思えるよう取組を行います。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (2) バスの乗り方教室や出前講座等の開催（町・地域公共交通会連、町民団体等） | 随時実施 |
| | - 高齢者や子供、子ども、地域団体などを対象とした「バスの乗り方教室」や出前講座を開催し、実際にやさしい公共交通やバスに対する知識を深めていただき、利用促進を図ります。また、町民団体等を活用して、公共交通やバスに関する普及啓発を行います。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (3) 利用促進イベントやキャンペーンの実施（町・地域公共交通会連、町民団体等） | 随時実施 |
| | - 実践フェスティバルや乗降促進フェスティバル、交通安全教育など既存のイベントやキャンペーンと連携して、バスを中心とした公共交通の利用促進に取り組めます。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (4) 広報誌やホームページ等による公共交通のPR（町） | 随時実施 |
| | - 「広報とよやま」や「とよやまチャンネル」にバスをPRする記事やコーナーを設けて、バスや公共交通に対する町民の意識等向上利用促進を図ります。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | - 町のホームページにおける公共交通関連情報の充実を図るとともに、町のホームページのスマートフォン版を作成します。 | |
| | 8 自転車、徒歩で移動できる交通環境の整備 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (1) 安全で魅力的な自転車、歩行空間の整備（町） | 27年度～ |
| | - 自転車道や緑道、歩道などを整備するとともに、自転車マップやお出かけマップなどの作成を検討します。魅力的な取組としてレンタサイクルの導入を検討します。 | |
| 環 境 に よ さ い 交 通 | (2) バスと自転車との乗り継ぎ環境の整備（町） | 28年度～ |
| | - 主なバス停留所に自転車駐輪場を整備するとともに、自転車や徒歩からバスに乗り継ぐために便利な情報提供などに取り組めます。 | |

●バス路線図

